

◆ 横光利一年譜

西 暦	歳	事 項
1898		3月17日、福島県北会津郡東山村（現会津若松市）で生まれる。父・梅次郎、母こぎくの長男。四歳上に姉・静子がいた。父は大分県宇佐郡長峰村大字赤尾（現宇佐市）の出身。
1904	6	滋賀県大津市大津尋常高等小学校入学。父が仕事で朝鮮へ渡ることになり、母の故郷、三重県伊賀町柘植に移る。
1911	13	三重県立第三中学校（現県立上野高校）入学。野球部、講演部に所属し、水泳、陸上などでも活躍。
1916	18	早稲田大学高等予科英文科入学。
1917	19	長期欠席により早稲田大学を除籍となる。横光白歩のペンネームで、小説を雑誌に投稿しはじめる。
1918	20	早稲田大学高等予科元級第一学年に復籍。中山義秀、吉田一穂、佐藤一英、小島昂らと同級となる。横光左馬のペンネームを使う。
1919	21	佐藤一英、藤森淳三の紹介で、菊池寛を知る。
1921	23	菊池寛の家で川端康成を知り、終生、親交が続く。
1923	25	『文藝春秋』が創刊され、編集同人となる。「日輪」「蠅」を発表して文壇に登場。
1924	26	『文芸時代』を創刊し、ここに新感覚派の文学運動が起こる。
1926	28	看病を続けていた小島キミが結核で死去。没後に婚姻届を出す。
1927	29	『春は馬車に乗って』刊行。日向千代と結婚。長男・象三誕生。
1928	30	上海に渡り、帰国後、「上海」の連載をはじめめる。
1930	32	「機械」を発表。小林秀雄らが絶賛。「寝園」の新聞連載開始。
1933	35	二男・佑典誕生。
1934	36	「紋章」「時計」の連載開始。「文学界」の同人となる。
1935	37	芥川賞・直木賞が制定され、選考委員となる。「家族会議」の新聞連載開始。友人、門下生で俳句会「十日会」を発足。
1936	38	最初の横光利一全集刊行。ヨーロッパへ取材旅行。
1937	39	「旅愁」の連載開始（以後、十年にわたって書きつがれ、作者の死により未完）。
1940	42	『旅愁』第一篇・第二篇刊行。日本文学者の会を発起人になる。文芸戦後運動の講演会で全国をめぐるが多くなる。
1943	45	『旅愁』第三篇刊行。大分県宇佐へ父の墓参にゆく。海軍報道班員としてニューギニアへ派遣されることになったが、体調不良のため断念。
1945	47	家族と、山形県鶴岡にある夫人の実家に疎開。一家はまもなく近隣の上郷村の農家で間借り生活をはじめめる。このときの体験が「夜の靴」にまとめられる。終戦後、東京へ戻る。
1946	48	戦後版の『旅愁』が刊行されはじめる。脳溢血の発作を起こす。
1947	49	「洋燈」執筆中にめまいを生じ、翌日、意識不明となる。12月30日夕、胃潰瘍に腹膜炎を併発して生涯を終える。

# 横 光 利 一 展

～ 光のある言葉を求めて ～

◆ 期 間

平成11年8月21日(土)～平成11年10月3日(日)

● 休館日……月曜日、祝祭日、月末木曜日

◆ 時 間

午前10時～午後6時（日曜日は午後5時まで）

◆ 場 所

宇佐市民図書館 2F

渡網記念ギャラリー

◆ 入 場 料

無 料



## 宇 佐 市 民 図 書 館

Usa Public Library

〒879-0453 大分県宇佐市大字上田 1017-1

TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679

# 横 光 利 一 展

光のある言葉を求めて



1999.8.21～10.3

宇佐市民図書館



# 横光利一展

～ 光のある言葉を求めて ～

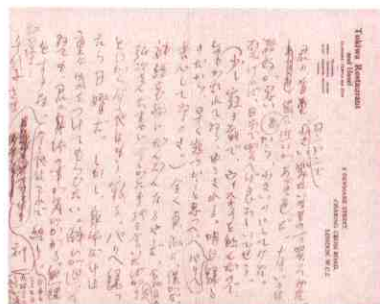
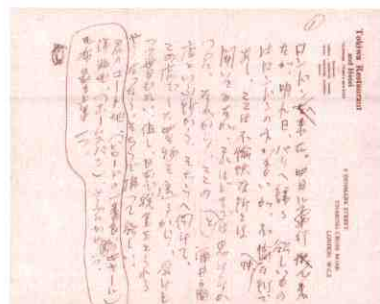
宇佐市ゆかりの作家・横光利一は昨年、生誕百年を迎えました。

今年は、昨年からの生誕百年記念行事を集大成する意味で、記念俳句大会、講演会、ゆかりの地からパネラーを迎えてのフォーラム、記念誌の発刊等、さまざまな関連行事を開催いたします。

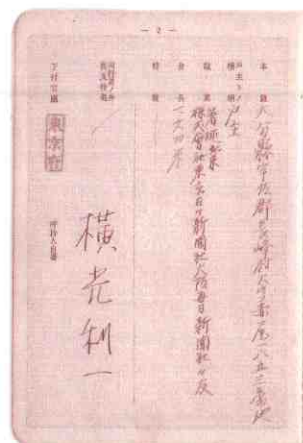
これら記念行事の一環として、宇佐市民図書館では、「横光利一展」を開催する運びとなりました。当館が所蔵している初版本のコレクションを中心に、横光家、神奈川近代文学館、鎌倉文学館、世田谷文学館、菊池寛記念館等、各方面からのご協力のもと、「光のある言葉」を求めた作家の生涯をたどりたいと存じます。九州地区の横光利一展としては初めて展示される貴重な資料が多数含まれております。

今年はまた、新感覚派の盟友・川端康成の生誕百年にあたることから、横光・川端の文学を包括的に再検討しようとの機運も高まりつつあります。交友関係などにも配慮しつつ、横光利一という作家のひろがりをも求めた展示にしております。

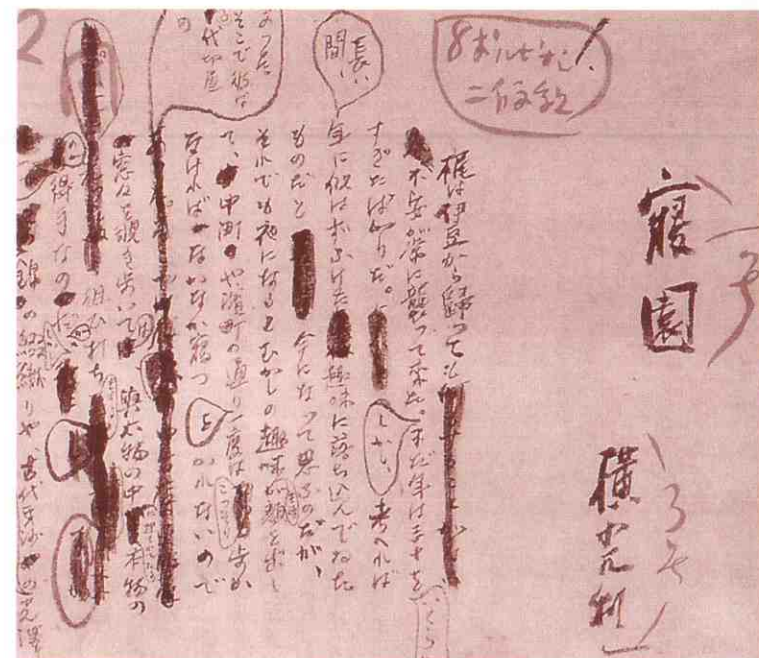
なお、宇佐市は横光利一の本籍地で、父親の故郷にあたります。代表作「旅愁」の後半で、主人公が父の骨を抱いて九州を訪れる場面は、宇佐がモデルとなっています。



ヨーロッパ旅行中に妻へあてた手紙



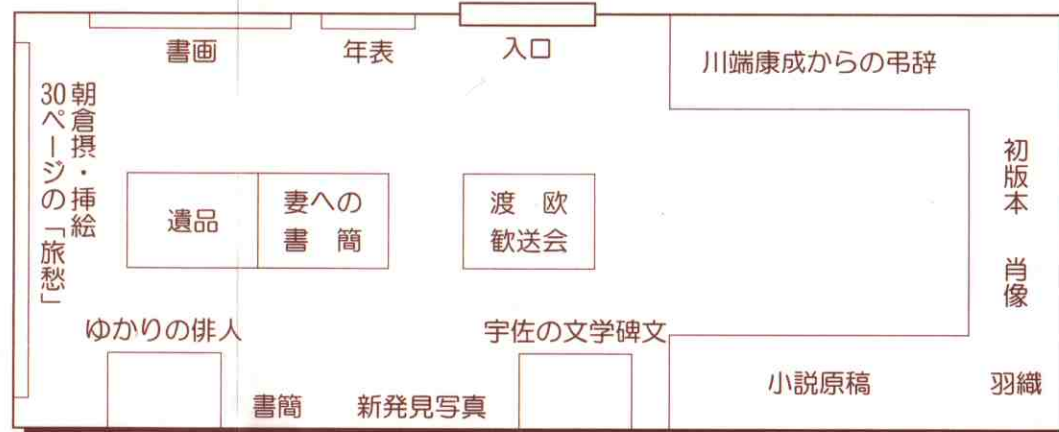
横光利一のパスポート  
本籍地の宇佐が記されている



「寝園」原稿



朝倉撰・画  
『旅愁』の挿絵  
九州の場面



## ● 主な展示品

- 【著書】 宇佐市民図書館所蔵の初版本約90冊をはじめとする関連図書。  
「旅愁」の掲載誌をはじめとする初出雑誌や追悼号。
- 【原稿】 横光利一の小説「旅愁」「寝園」「家族会議」など。  
盟友・川端康成が書いた横光利一への弔辞。  
師・菊池寛が書いた横光利一への弔辞。  
横光利一を中心とした俳句会「十日会」の会報。
- 【書画】 横光利一の俳句、水墨画、俳画。  
菊池寛が横光夫人に送った利一追悼の色紙。

- 【書簡】 横光利一がヨーロッパ旅行中に妻に宛てたもの。  
横光利一が川端康成に宛てたもの。  
「機械」を絶賛した評論家・小林秀雄が横光利一に宛てたもの。  
横光利一が林芙美子に宛てたもの。
- 【遺品】 「夜の靴」創作ノート、愛用の着物、煙管、ペン立て、落款、海軍報道班員証明書、文芸家協会会員証、パスポート、デスマスク。
- 【挿絵】 大分県朝地町出身の彫刻家・朝倉文夫の長女で、舞台美術家として世界的に活躍する朝倉撰氏が「旅愁」に書いた挿絵（総計30点）。
- 【その他】 多数の写真パネル展示と解説。